

平成29年度 学校評価

千葉県立大原高等学校

1 学校評価のねらいについて

学校評価は、学校運営の改善のために行われ、具体的には次のような点にねらいがあります。

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価し、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 各学校が、自己評価及び保護者・地域などによる評価の実施とその結果公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定の水準の教育の質を保障し、その向上を図ること。

2 学校評価の実施方法等について

- (1) 自己評価 学校教職員によるアンケート評価
- (2) 生徒や保護者によるアンケート評価
- (3) 「開かれた学校づくり委員」による学校関係者評価：生徒・保護者アンケートによる評価を踏まえた自己評価とその改善方法について各委員による評価

3 評価のまとめ () 内は昨年度の数値

(1) 職員評価について

① 学校全般について

- ・「教育目標は社会の変化や生徒・保護者の要望等に対応して作成されている」と答えた職員は**87.3%**(93.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**12.7%**(6.9%)であった。
- ・「生徒・保護者・地域に積極的に情報を提供している」と答えた職員は**77.1%**(87.4%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**22.5%**(12.6%)であった。
- ・「生徒や保護者の要望に十分応えるよう教育課程が編成されている」と答えた職員は**63.4%**(75.7%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**36.7%**(24.3%)であった。

これらのことから、全体的には、職員は学校教育活動が生徒・保護者の要望に合わせて設定されており、情報を提供していると考えていることがわかる。しかし、3校統合後の教育課程の編成に、まだ改善の余地があると感じている。

② 学習指導について

- ・「少人数学習など個に応じた学習指導に対応している」と答えた職員は**77.1%**(95.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**12.7%**(6.9%)であった。
- ・「授業時間の確保に努め十分な学習指導が展開されている」と答えた職員は**71.8%**(89.3%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**28.2%**(8.7%)であった。
- ・「生徒を適切に評価し学力向上対策に取り組んでいる」と答えた職員は**67.6%**(88.3%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**32.4%**(11.7%)であった。
- ・「少私は指導方法や内容に工夫・改善を行いわかる授業の展開に努めている」と答えた職員は**94.4%**(97.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**5.6%**(2.9%)であった。
- ・「授業に真面目に取り組んでいる生徒が多い」と答えた職員は**54.9%**(64.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は**45.0%**(36.0%)であった。

これらのことから、職員は個別の授業では工夫・改善に取り組んでいるが、3校統合後の学校全体での体制作りは、検討していく必要があると考えている。また、生徒の授業への取組には課題を感じており、後述の生徒の意識との差は大きい。

③ 指導体制について

- ・「ルールやマナーなど社会規範に係る指導は適切に行われている」と答えた職員は74.6%(90.3%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は25.3%(9.7%)であった。
- ・「先生方は細やかに生徒指導にあたっている」と答えた職員は80.0%(89.3%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は19.7%(10.7%)であった。
- ・「生徒の進路希望に応じて適切に進路指導が行われている」と答えた職員は84.5%(97.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は15.5%(2.9%)であった。
- ・「進路情報は積極的に生徒・保護者に提供され有効に活用されている」と答えた職員は78.6%(94.2%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は21.3%(5.9%)であった。
- ・「部活動・学教行事・生徒会活動は活発で生徒は熱心に取り組んでいる」と答えた職員は66.2%(83.5%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は33.8%(16.5%)であった。
- ・「健康や安全に係る教育を推進し生徒の健康管理に努めている」と答えた職員は77.5%(89.3%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は22.5%(10.7%)であった。
- ・「学習環境の整備に努め安全・快適で清潔な環境の保持を心がけている」と答えた職員は64.8%(82.5%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は35.2%(17.4%)であった。
- ・「管理職を含め職員間のコミュニケーションがよくとれていると思う」と答えた職員は31.0%(63.1%)であり、「あてはまらない」と答えた職員は69.0%(36.9%)であった。

これらのことから、統合完了に伴い、職員はそれぞれの指導に努力しているが、組織としての機能が十分に発揮されているかについては課題を感じている。学習環境の整備も含めて、生徒主体の学校教育活動の確立に向けてより一層の努力をしていく。

(2) 保護者評価について

① 学校全般について

- ・「大原高校の教育目標を理解している」と答えた保護者は87.1%(81.8%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は13.0%(18.2%)であった。
- ・「学校の教育活動に関心がある」と答えた保護者は92.9%(88.7%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は7.1%(11.3%)であった。

これらのことから、全体的には、保護者は学校教育活動に関して強い関心を持っていることがわかる。昨年度に比べてその割合も高くなっており、また、「教育目標」についても、保護者の理解度は向上している。保護者が学校教育活動に対して大きな期待を持っていることがわかることから、生徒がより良い学校生活を過ごし、より一層効果的な教育活動に取り組んでいく必要がある。

② 基礎学力の定着について

- ・「学校では分かりやすい授業が行われている」と答えた保護者は89.5%(87.6%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は10.4%(12.4%)であった。
- ・「子どもは基礎学力の定着がしっかりとされている」と答えた保護者は65.1%(60.3%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は34.8%(39.7%)であった。
- ・「子どもは家庭学習を毎日している」と答えた保護者は28.4%(23.4%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は71.5%(76.6%)であった。

これらのことから、全体的には、保護者は学校の授業に関してわかりやすく実施されていると考えていることがわかる。しかし、それが学力の向上につながっているとの認識は低く、また、家庭学習の実施率が低いことも、基礎学力の定着につながっていない要因の一つであるとの認識であると考えている。

③ 学校の指導体制について

- ・「学校は生徒の進路目標達成に向けて適切な指導を行っている」と答えた保護者は92.9%(88.6%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は7.1%(11.4%)であった。

・「学校では学習活動・学校行事などで特色ある教育活動が行われている」と答えた保護者は**94.5%**(90.8%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**5.5%**(9.2%)であった。

・「学校では頭髪・服装指導や挨拶や時間を守ることなど生徒の基本的な生活習慣の定着に力を入れている」と答えた保護者は**94.2%**(92.9%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**5.8%**(7.1%)であった。

これらのことから、全体的には、保護者は学校の進路指導・学校行事の指導・生活指導などの教育活動にかなりの割合で満足していることがわかる。引き続き、教科指導も含めた生徒指導などの学校教育活動全般で、より一層の生徒理解に努め、生徒、保護者、教師の一層信頼関係が深まるようにしたい。

④ 学校の情報・相談体制について

・「学校は相談しやすい雰囲気である」と答えた保護者は**88.0%**(86.4%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**12.0%**(13.6%)であった。

・「学校は積極的に生徒の様子を保護者に伝えようとしている」と答えた保護者は**78.4%**(80.6%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**21.5%**(19.4%)であった。

・「学校は保護者と適切に情報交換している」と答えた保護者は**77.5%**(79.5%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**22.5%**(20.5%)であった。

・「学校は生徒の安全や健康管理に充分取り組んでいる」と答えた保護者は**90.4%**(89.3%)であり、「あてはまらない」と答えた保護者は**9.6%**(8.7%)であった。

これらのことから、保護者は相談しやすいと感じつつも、情報量には満足し切れていないことがわかる。また、安全管理や健康管理の指導には満足しており、上記の指導体制と合わせて学校の教育活動には肯定的な評価が高いと感じられる。

(3) 生徒評価について

① 学校生活について

・「目標を持って学校生活を送っている」と答えた生徒は**63.4%**(80.1%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**36.6%**(19.9%)であった。

・「先生方は熱意を持って私達の指導にあたっている」と答えた生徒は**79.1%**(83.8%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**32.4%**(16.2%)であった。

・「大原高校先生方は私達の悩みや相談に親身になって対応してくれる」と答えた生徒は**75.8%**(87.6%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**24.2%**(12.3%)であった。

これらのことから、生徒と教師の関係については、生徒の意識は2項目とも昨年より減少している。また、生徒自身の学校生活についての目標設定も下降していることから、より一層の生徒理解に努め、生徒との信頼関係の中で目標を持った学校生活を送れるように指導していきたい。

② 自分自身の取組について

・「私は校則や社会のルールをきちんと守って行動している」と答えた生徒は**87.8%**(74.1%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**12.1%**(25.8%)であった。

・「大原高校の学校行事・生徒会活動等は充実している」と答えた生徒は**78.0%**(76.7%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**22.0%**(23.3%)であった。

・「大原高校は部活動が活発で熱心に取り組んでいる」と答えた生徒は**77.4%**(84.2%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**22.6%**(15.8%)であった。

・「大原高校は私達の安全・健康管理に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒は**82.9%**(72.2%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は**17.1%**(27.8%)であった。

これらのことから、生徒の規範意識は向上してきていることがわかる。学校行事に関しては生徒の評価は変化がなく、部活動については減少していることから、積極的に学校での活動に参加する意欲の減少が感じられる。安全管理・健康管理については意識の向上が見られる。

③ 授業について

- ・「授業の内容はよく理解できている」と答えた生徒は84.0% (86.8%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は16.0% (13.3%)であった。
- ・「授業の予習・復習は時間を決めて毎日行っている」と答えた生徒は26.2% (26.5%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は73.8% (73.5%)であった。
- ・「授業は真面目に取り組んでいる」と答えた生徒は91.3% (93.3%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は8.7% (6.6%)であった。
- ・「課題等は期限を守って提出している」と答えた生徒は88.9% (91.7%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は11.1% (8.4%)であった。
- ・「授業はわかりやすい教え方の工夫がされている」と答えた生徒は89.9% (91.0%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は10.1% (9.1%)であった。
- ・「先生の説明や話し方はわかりやすい」と答えた生徒は91.2% (90.7%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は8.8% (9.3%)であった。
- ・「先生の黒板への書き方や文字・図は見やすい」と答えた生徒は91.5% (91.4%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は8.6% (8.7%)であった。
- ・「授業を進める速さはちょうどよい」と答えた生徒は91.0% (90.9%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は9.0% (9.1%)であった。
- ・「授業での教材（プリント）等は工夫がされている」と答えた生徒は91.0% (92.7%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は9.0% (7.3%)であった。
- ・「授業の雰囲気がいよい」と答えた生徒は91.3% (91.8%)であり、「あてはまらない」と答えた生徒は8.8% (8.2%)であった。

これらのことから、全体的に生徒は授業に真面目に取り組んでおり、課題も期限を守るなど、しっかりと学習していることがわかる。しかし、予習・復習等の家庭学習に課題がある。先生方の授業の在り方への評価も高く、このことから生徒が授業に積極的に取り組んでいることがうかがえる。

4 自己評価・外部アンケートによる評価を踏まえた次年度への改善方策について

本年の教育活動についての自己評価、生徒・保護者アンケートによる評価に基づき、以下の項目について、次年度以降の学校改善の方策をまとめる。

(1) 学校運営上の課題等について

「教育目標」については、肯定的評価は、職員は87.3% (93.1%)、保護者は87.1% (81.8%)であった。保護者・地域には、ホームページや様々な広報媒体を活用することによって、教育目標・教育方針等をさらに周知した上で継続して取り組む。知・徳・体の調和のとれた人材育成については、文武両道や地域に貢献できる生徒の育成について一層強力な指導を図っていく。生徒数の減少によって生徒募集や学校運営には難点もあるが、本校の骨格をなす総合学科の教育活動を崩すことなく、さらには各種専門教科を活用して、広い視点で取り組みの充実を図る。

(2) 自己評価結果と学校関係者評価について

生徒・保護者アンケートによる評価と職員の自己評価については、ホームページ等で公表する。来年度に向けては、開かれた学校づくり委員会等の意見を参考にして、改善に努めていく。

(3) 学校や地域の実情に応じた諸活動の企画・運営について

- ① 学習指導について、「指導方法や内容に工夫・改善を行い、わかる授業の展開に努めている」という職員は94.4% (97.1%)であるが、授業の理解度の項目での肯定的な回答が、生徒は84.0% (86.8%)、保護者は89.5% (87.6%)と、どちらも80%を超える評価となっている。生徒・保護者と教員との認識にはあまり差はなく、この点でも学習指導はより一層の改善をしながら、生徒の実態を踏まえ、さらにわかりやすい授業に向けて、各教科で授業改善（授業公開や授業研究等を含む）に取り組むこととする。また、「家庭学習の習慣化」の数値がおよそ26%と極めて低いことから、教科指導の中に家庭学習の充実を盛り込むことが重要である。
- ② 生徒指導について、生徒は79.1% (83.8%)が肯定的であり、保護者は94.2% (92.9%)、職員は74.6% (90.3%)が肯定的である。本校生徒の人間性をさらに高めることによって、生徒の生活面全般の指導の徹底を図ることとする。